

---

# 建物悉皆調査を通じた 地方創生に関する調査研究

---



(美波町桜町地区)



(木頭出原・和無田地区)

徳島県南部総合県民局  
平成29年3月



## 1.調査目的

### (1)美波町桜町地区

現在の美波町は平成18年3月31日に日和佐町と由岐町が合併して誕生した町で、徳島県の南東部に位置し、北は阿南市、那賀町、西は牟岐町、海陽町に接し、南東は太平洋に望み、暖かい黒潮の良好な漁場を有している。

海岸部は、海亀が産卵をする砂浜、陸けい島、離島、海食崖、海食窪、多様な岩礁など、非常に変化に富んだ海岸線となっており、多くは「室戸阿南海岸国定公園」に指定され、風光明媚なりアス式海岸となっている。

産業は古くから漁業が中心であり、漁具・漁法が発達し、延縄や定置網、和船の建造などが工夫されてきた。

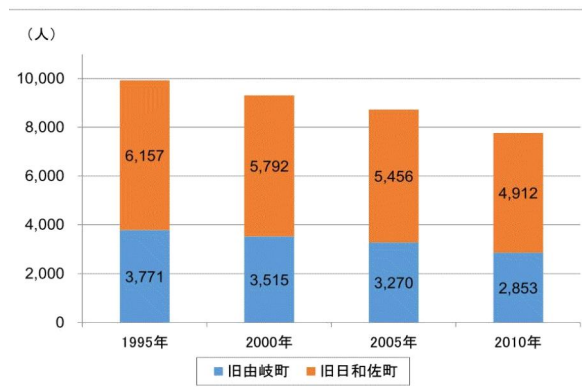
太平洋気候区域にあり、年間の降雨量は約3,000ミリという日本の最多雨地域である。沿岸では平均気温が約16度になり、真冬でも海水温が10度以下に下がることはなく、冬でも暖かな気候である。海岸部や離島には亜熱帯植物が分布している。

今回調査対象となる桜町地区(寺前地区・弁才天地区を含む)は、四国88箇所霊場の23番札所である薬王寺の門前町として栄えてきたが、当地区も、近年の少子高齢化、人口減少及び建物の建替えにより、空き家の増加や歴史的な町並みが消えつつある現状である。

### ■桜町地区の人口等の状況

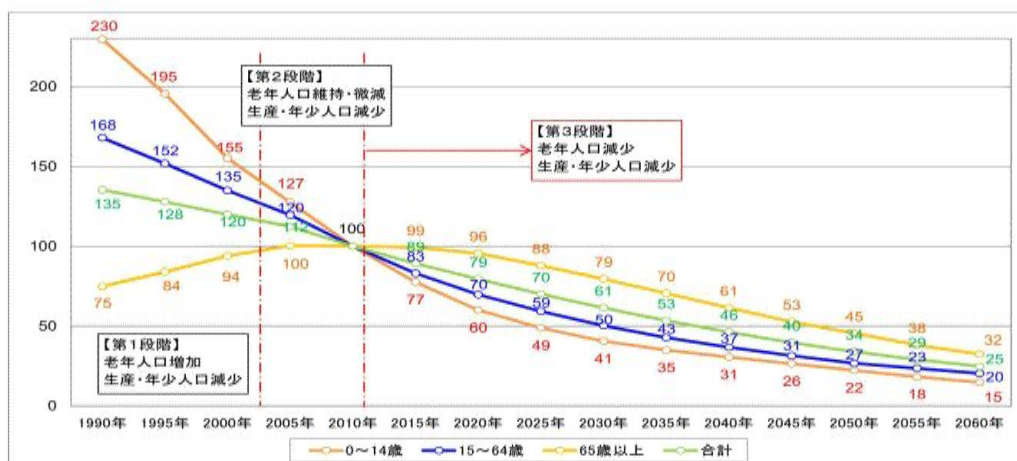


桜町地区の位置



各地区の人口推移(美波町人口ビジョン)  
※合併前旧町単位

## ■美波町の人口減少段階の分析(美波町人口ビジョン)



人口減少は大きく分けて「第1段階: 老年人口の増加(総人口の減少)」、「第2段階: 老年人口の維持・微減」、「第3段階: 老年人口の減少」の3つの段階を経て進行するとされており、全国的には平成52年から「第2段階」に入ると推測されている。

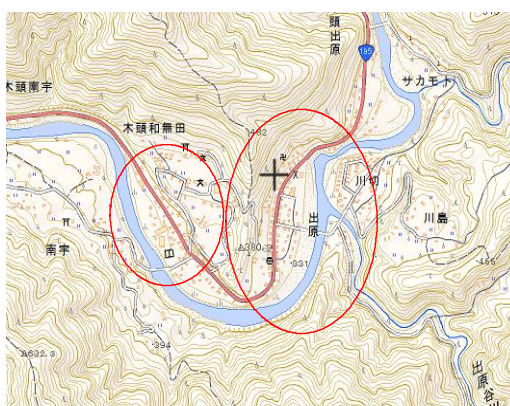
美波町の場合、平成22年の人口を「100」とした場合の老年人口(65歳以上)の指標は、平成22年以降減少するという推計が示されています。したがって、美波町の人口減少段階は全国的な動向よりも早く、平成22年にはすでに「第3段階」に入っていると考えられる。

## (2) 那賀町木頭出原・和無田地区

現在の那賀町は平成17年3月1日に鷲敷町・相生町・上那賀町・木沢村・木頭村の丹生谷5町村が合併した誕生した町で、徳島県の南部に位置し、東は阿南市、西は高知県、南は海部郡、北は勝浦郡、神山町、美馬市、三好市に隣接しています。地域の北西部には四国山地、南部には海部山脈などを配しており、標高1,000メートル以上の山々に囲まれ、地域の9割以上が森林の中山間地域です。地域内には那賀川及び坂州木頭川が流れ、両河川は旧上那賀町内で合流して地域のほぼ中央を西から東に貫流しています。

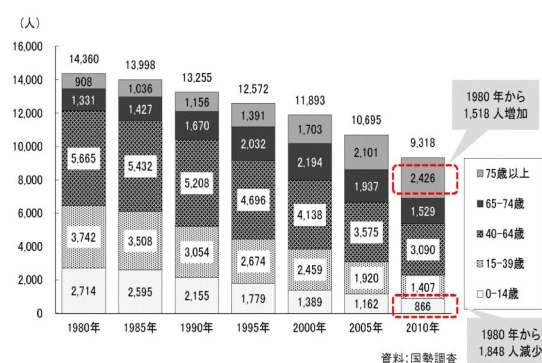
今回調査対象となる木頭出原・和無田地区は、98%が森林という山村で、「木頭ゆず」を中心とした農業が主な産業となっているが、両地区も、やはり少子高齢化、人口減少及び建物の建替えにより、空き家の増加などの問題を抱えているのが現状である。

### ■木頭出原地区・和無田地区の人口等の状況



木頭出原地区・和無田地区の位置

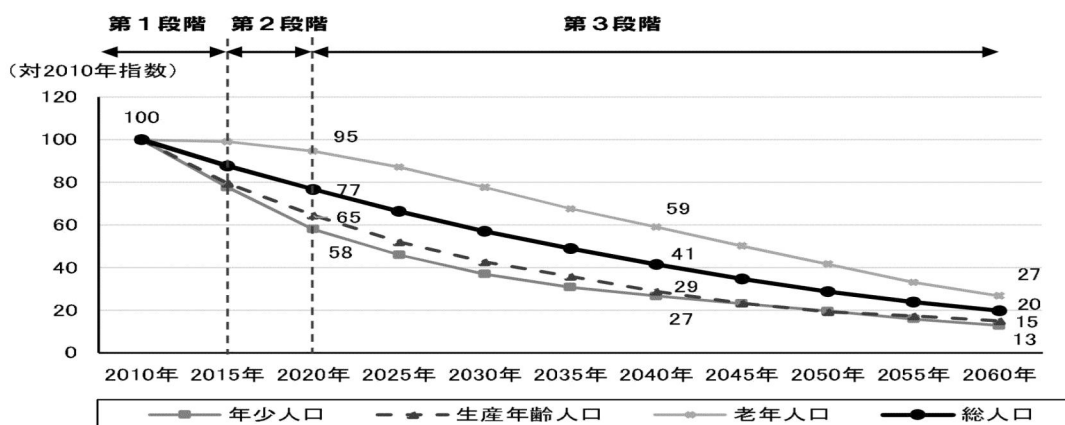
### ■年齢5区分別人口の推移



年齢5区分別人口の推移(那賀町人口ビジョン)

### ■那賀町の人口減少段階の分析(美那賀町人口ビジョン)

#### ■人口減少段階の分析(パターン1:社人研準拠)



那賀町においても、美波町と同様、すでに「第3段階」に入っていると考えられる。

(3) そこで、町並みの保存や空き家状況の把握さらに防災上の観点などを網羅し集落の再生を目的として、美波町桜町地区、那賀町木頭出原地区・和無田地区にある全建物を対象にそれぞれ美波町・那賀町と連携し調査を行うこととした。この調査により個別建物の歴史的意匠や建物の残存状況を把握するとともに、地域のコミュニティーの存続を見据えた検討ができると考えられる。本調査により、こうした地域の保全や活用を議論するための基礎的な資料を整備する。

また、調査の実施機関については、平成26年度は美波町日和佐浦地区、平成27年度は海陽町鞆浦地区において同様の建物悉皆調査を実施している、徳島大学総合科学部の塚本准教授のゼミに依頼した。今回の調査では、県民局と美波町・那賀町は専門的知見による研究や若い視点の導入及び若者と少子高齢化が進む地域との交流促進を望んでおり、徳島大学は、学術研究はもとより、地域連携や社会貢献さらに人材育成を見据えた取組を展開していることから両者の目的が合致している。

※参考 美波町日和佐浦地区建物悉皆調査

実施期間：平成26年9月28日(日)～30日(火)

調査戸数：1,068件(図-1参照)



図-1

## 2.調査内容

### 2-1. 調査対象

美波町桜町地区及び那賀町木頭出原地区・和無田地区(倉庫等を含む)を対象とした(図-2参照)

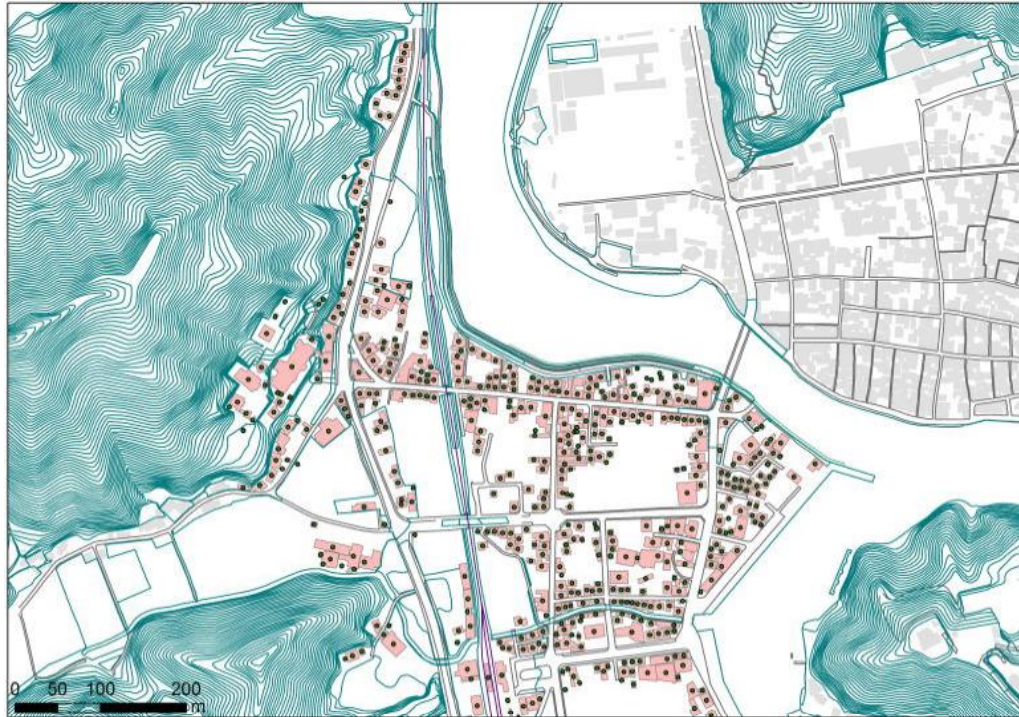


図-2(桜町地区)

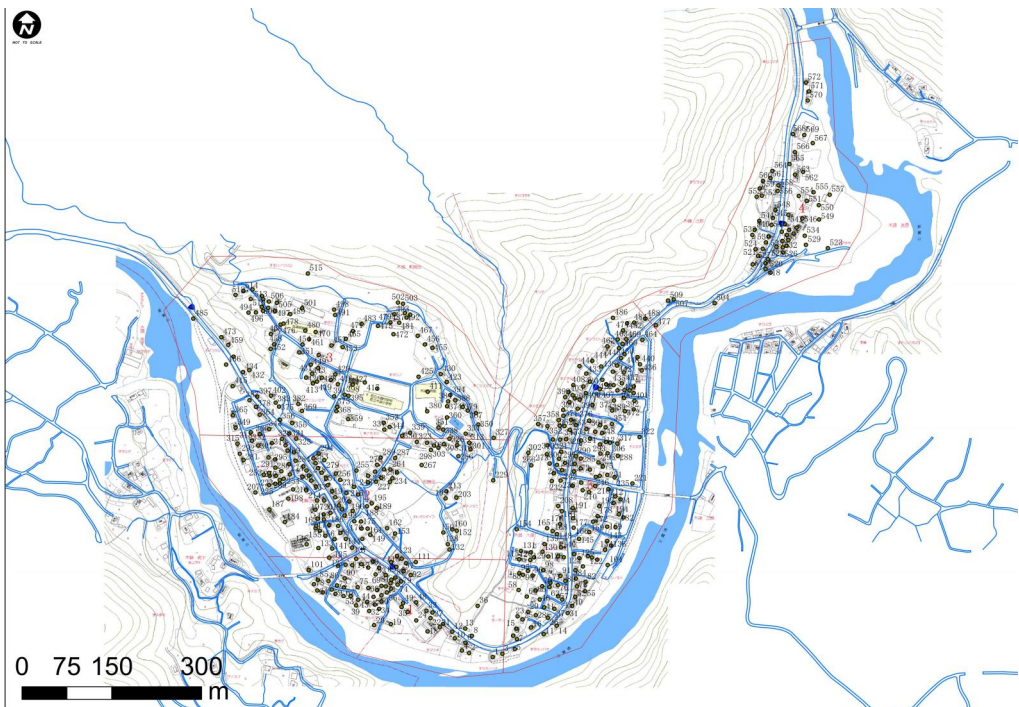


図-2(木頭出原地区・和無田地区)

## 2-2. 調査項目

調査表は「地域の特徴的な建築物であるか」、「構造」、「用途」、「空き家であるかどうか」など、過去の調査も踏まえながら21項目を設定した。1枚におよそ3分から5分程度かかる(別紙-1参照)。各地区で同様の調査表を使用した。

地区名	地図番号	建物ID	調査日	調査員・班	写真記録時間	写真ファイル名
			年 月 日			

1	地図の確認	<input type="checkbox"/> 地図通りである <input type="checkbox"/> 訂正あり ( )				
2	基本選択	<input type="checkbox"/> 地域の特徴的な建築物 (○厨子造 ○塗籠造 ○看板建築 ○その他) <input type="checkbox"/> 新しい建築物 <input type="checkbox"/> 不明				
3	構造	構造: <input type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> 木造以外 <input type="checkbox"/> 不明				
4		階数: <input type="checkbox"/> 平屋建 <input type="checkbox"/> 厨子2階 <input type="checkbox"/> 2階建 <input type="checkbox"/> その他 ( ) <input type="checkbox"/> 不明				
5		下屋: <input type="checkbox"/> 下屋 ( ) 方 <input type="checkbox"/> 前面○左面○右面○後面○その他 ( )				
6	用途	<input type="checkbox"/> 住宅 <input type="checkbox"/> 店舗 <input type="checkbox"/> 事務所 <input type="checkbox"/> 車庫 <input type="checkbox"/> 蔵・倉庫 <input type="checkbox"/> 共同住宅 <input type="checkbox"/> ( ) 併用住宅) <input type="checkbox"/> その他 ( )				
7	空家確認	<input type="checkbox"/> 空き家でない <input type="checkbox"/> 空き家と思われる <input type="checkbox"/> 不明 空家の判断材料: <input type="checkbox"/> 表札がない <input type="checkbox"/> ガスメーターが止まっている/メーターがない <input type="checkbox"/> ガスの栓が外れている <input type="checkbox"/> 近隣住民に聞いた <input type="checkbox"/> 水道栓がない/水が出ない <input type="checkbox"/> 雨戸を締め切っている <input type="checkbox"/> カーテンがない <input type="checkbox"/> 外観が廃屋風 (人が住んでいる気配がない)				
8	庭	<input type="checkbox"/> 庭 <input type="checkbox"/> 前面○左面○右面○後面○その他 ( )				
9	前面道路	<input type="checkbox"/> 道路 <input type="checkbox"/> 水路 <input type="checkbox"/> 道路側溝 <input type="checkbox"/> 未接道 <input type="checkbox"/> その他 ( )				
10	接道玄関面	<input type="checkbox"/> 平入り <input type="checkbox"/> 妻入り <input type="checkbox"/> その他				
11	屋根	材料: <input type="checkbox"/> 本瓦葺き <input type="checkbox"/> 棧瓦葺き <input type="checkbox"/> 金属類 (○茅葺下地) <input type="checkbox"/> その他 ( )				
12		形状: <input type="checkbox"/> 切妻 <input type="checkbox"/> 寄棟 <input type="checkbox"/> 入母屋 <input type="checkbox"/> 陸屋根 <input type="checkbox"/> 片流れ <input type="checkbox"/> 片入母屋 <input type="checkbox"/> 鍔葺き <input type="checkbox"/> その他( )				
13	下屋	材料: <input type="checkbox"/> 本瓦葺き <input type="checkbox"/> 棧瓦葺き <input type="checkbox"/> 金属類 (○茅葺下地) <input type="checkbox"/> その他 ( )				
14		梁桁: <input type="checkbox"/> 繋ぎ梁 <input type="checkbox"/> 差肘木 <input type="checkbox"/> 通肘木 <input type="checkbox"/> 下屋桁 (○丸太 ○丸太から角材 ○角材 ○不明)				
15	軒	<input type="checkbox"/> 垂木表し <input type="checkbox"/> 出桁 (せがいづくり) <input type="checkbox"/> 小庇 <input type="checkbox"/> その他特徴( )				
16	壁・腰	<input type="checkbox"/> 大壁 <input type="checkbox"/> 真壁 <input type="checkbox"/> 漆喰 <input type="checkbox"/> 下見板 <input type="checkbox"/> 金属トタ類 <input type="checkbox"/> 防火サイディングボード類 <input type="checkbox"/> コテ絵 <input type="checkbox"/> パ°ン塗 <input type="checkbox"/> 珪藻土塗 <input type="checkbox"/> その他 ( )				
17	建具	<input type="checkbox"/> うだつ <input type="checkbox"/> 幕掛け <input type="checkbox"/> 木製建具+ガラス <input type="checkbox"/> アルミサッシ+ガラス <input type="checkbox"/> 引違い障子 <input type="checkbox"/> 板戸 <input type="checkbox"/> 虫籠窓 <input type="checkbox"/> 出格子 <input type="checkbox"/> 部張:ミセづくり (○上ミ <input type="checkbox"/> 下ミ <input type="checkbox"/> 上下ミ) <input type="checkbox"/> 雨戸戸袋 (○木製 ○アルミ ○その他 ( )) <input type="checkbox"/> 肘木 <input type="checkbox"/> 方杖 <input type="checkbox"/> 持送り (彫刻: ( )) <input type="checkbox"/> 窓格子 (○木製縦格子 ○その他(( ( )))) <input type="checkbox"/> 手すり(○木製 ○その他( ( ))))				
18	景観要素	<input type="checkbox"/> 生垣 <input type="checkbox"/> コンクリート塀 <input type="checkbox"/> 樹木 <input type="checkbox"/> 石垣 <input type="checkbox"/> 土塀 <input type="checkbox"/> 石碑 <input type="checkbox"/> 地藏尊 <input type="checkbox"/> その他 ( )				
19	建物状態	<input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 不十分 ( ) <input type="checkbox"/> 今すぐ修理が必要 ( )				
20	印象 (評価)	<input type="checkbox"/> 文化財として重要な建物 <input type="checkbox"/> 町並み景観に寄与している建物 <input type="checkbox"/> 比較的新しいが雰囲気を残している <input type="checkbox"/> 詳細調査が必要と思われる建物 改造の程度:○多い○少ない○ほとんどない <input type="checkbox"/> その他 (不明)				
21	その他メモ欄					

## 2-3. 調査方法

調査チームは各地区を5つに分割し、その地区ごとに調査チームを決める。各チームは、2名ずつで写真係と調査票記入係に分かれる。GPS機能付きのデジタルカメラを用意し、写真の撮影時間と位置情報から、調査後も撮影した建物を判別できるようにしているのに加え、今年度は、タブレット端末を2台用意し、データ入力先のエクセルシートと連動したアプリを使用し直接入力を行うことで、後のデータ入力の手間を削減する試みを行った。

使用する地図については各地区の建物を把握し、調査を行う際にも持ち歩くための住宅地図と砂防基盤図の2種類の地図を用意した。ひとつは、住宅地図で表札のデータが付加されており、もうひとつは、行政が所有している砂防基盤図である。いずれも、建物形状がわかるデータであるが、行政が取り扱う基盤地図情報や都市計画図との経年的な比較検証を想定して、砂防基盤図を本調査の基礎データとした。この基礎データに、現地調査の結果を反映させて地図化や空間分析を行う。



オリエンテーションの様子(桜町地区)



オリエンテーションの様子(木頭出原・和無田地区)

## 2-4. 調査期間

桜町地区は平成28年12月2日(金)から4日(日)の3日間、木頭出原・和無田地区は平成29年1月13日(金)から15日(日)の3日間で現地調査を行い、その後、データ入力や調査結果の分析を3月末までの期間で行っている。



### 3.調査結果

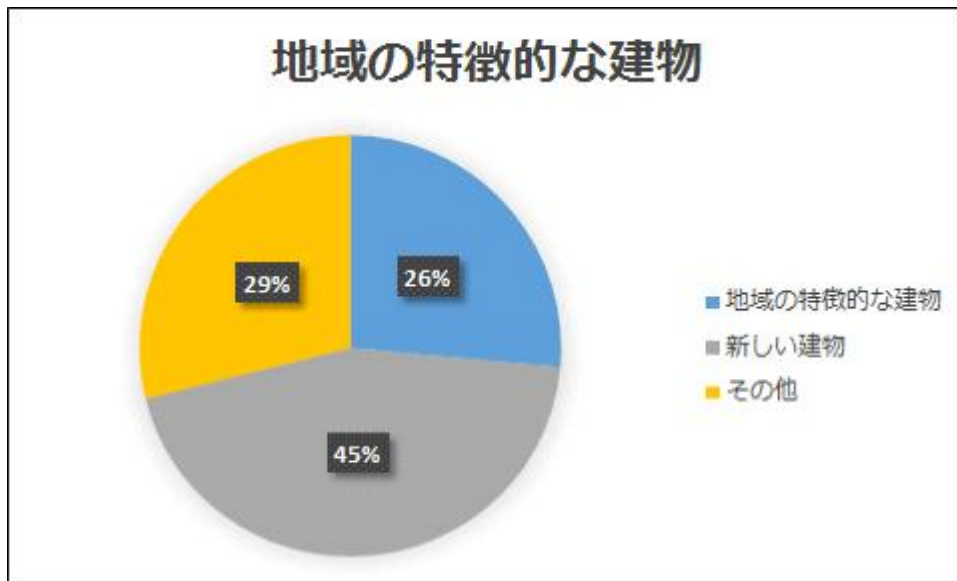
レコードは桜町地区が519件、木頭出原・和無田地区が646件に上った。この数はすべてが建物ではなく、建物から空き地や駐車場へと変化したもの、さらに一部が駐車場で一部が建物というケースも数に計上されている。一方、街区の奥まった場所や私有地(道)を通らなければ辿り着けない建物もあるが、それらについては調査対象からは外れている。こうした事情から、調査対象総数が必ずしも各地区の建物すべての数ではないことに留意する必要がある。上記を踏まえた上で、下の調査項目について、グラフと地図で視覚化を行い現状を把握する。なお、紙幅の都合から、いくつか掲載されていない項目もある。

管理番号	建物ID	緯度	経度	ステータス	更新日時	入力者	チェック者	基本履歴 基本履歴	写真記録日時1	写真記録日時2	P2メモ	構造	階数
4	4	33.73174933	134.53166	一次調査済	2016/12/03 13:55:31			新しい建築物	2016/12/03 13:54:56			木造以外	平屋建
6	6	33.73142424	134.5320579	一次調査済	2016/12/03 14:11:41			新しい建築物	2016/12/03 14:11:13			木造以外	平屋建
8	8	33.73109377	134.5315594	一次調査済	2016/12/03 12:40:05			不明	2016/12/03 11:25:07			木造	平屋建
10	10							不明	2016/12/03 15:56			木造以外	その他
12	12							新しい建築物	2016/12/03 13:56:19			木造以外	平屋建
14	27	33.73077744	134.5319087	一次調査済	2016/12/03 16:21:15			新しい建築物	2016/12/03 13:27			木造以外	平屋建
15	30	33.73159813	134.5317077	一次調査済	2016/12/03 12:37:39			新しい建築物	2016/12/03 16:20:51			木造以外	平屋建
16	31							新しい建築物	2016/12/03 9:45:20			木造以外	平屋建
18	33	33.73108177	134.5316149	一次調査済	2016/12/03 12:40:16			新しい建築物				木造以外	平屋建
19	38	33.73184025	134.5324657	一次調査済	2016/12/03 15:00:25			新しい建築物	2016/12/03 11:23:01			木造以外	平屋建
20	41	33.73143954	134.5281668		2016/12/04 15:44:16			新しい建築物	2016/12/03 14:59:57			木造以外	平屋建
21	42	33.72937789	134.5287422		2016/12/04 14:03:08				2016/12/03 10:07	2016/12/04 11:11:27		木造	平屋建
22	43								2016/12/04 13:49:34				
23	44	33.73038063	134.528473		2016/12/04 14:21:33				2016/12/03 15:47				
24	48	33.73036107	134.5287122		2016/12/04 14:20:14								
25	49	33.73139	134.5279754		2016/12/04 15:02:22			新しい建築物	2016/12/03 10:19	2016/12/04 11:20:28		木造以外	平屋建
26	50											木造以外	平屋建
27	51	33.73176778	134.5311897	一次調査済	2016/12/03 14:27:51			地域の特徴的な建築物	2016/12/03 14:27:23			木造以外	平屋建
28	54	33.73024041	134.531462	一次調査済	2016/12/03 13:57:17				2016/12/03 13:57:09			木造以外	平屋建
29	55	33.73302166	134.5287459		2016/12/04 15:52:05			新しい建築物	2016/12/03 13:50	2016/12/04 10:18:43		木造以外	平屋建
30	57								2016/12/04 9:56			木造以外	平屋建
31	63	33.73079961	134.5304261	一次調査済	2016/12/02 17:30:58			不明				木造以外	平屋建

データベース (抜粋)

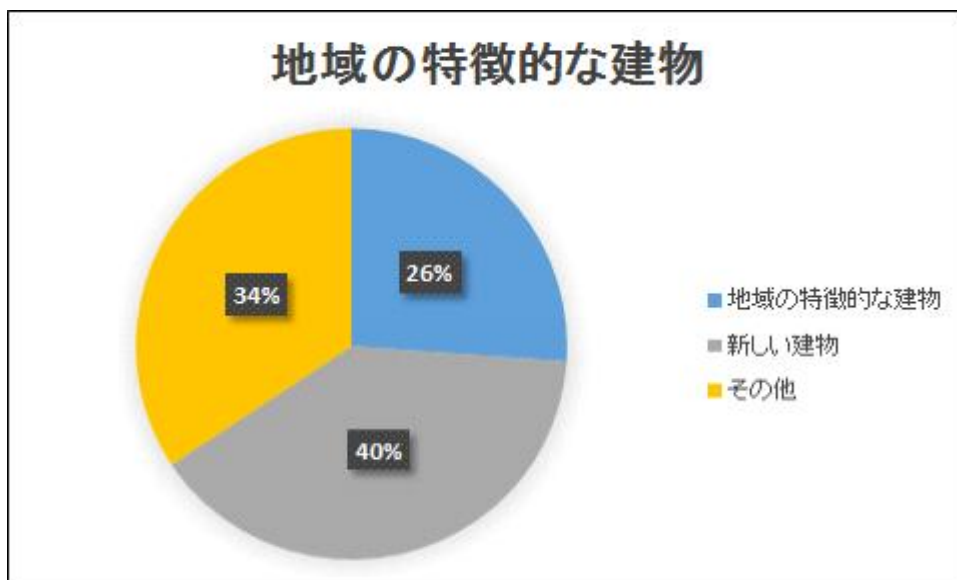
### 3-1. 地域の特徴的な建物

#### (1) 美波町桜町地区



地域の特徴的な建物	142
新しい建物	240
その他	155

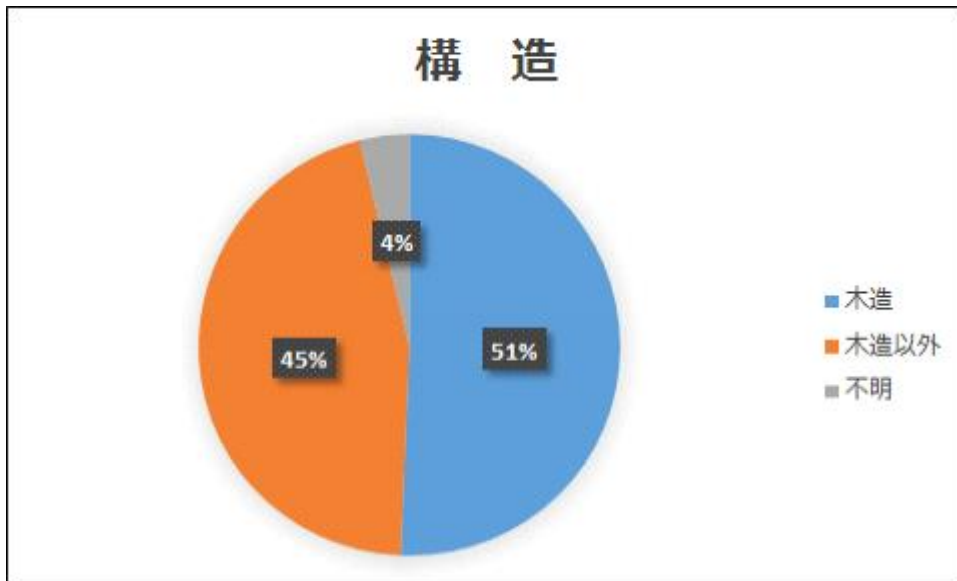
#### (2) 木頭出原・和無田地区



地域の特徴的な建物	128
新しい建物	194
その他	168

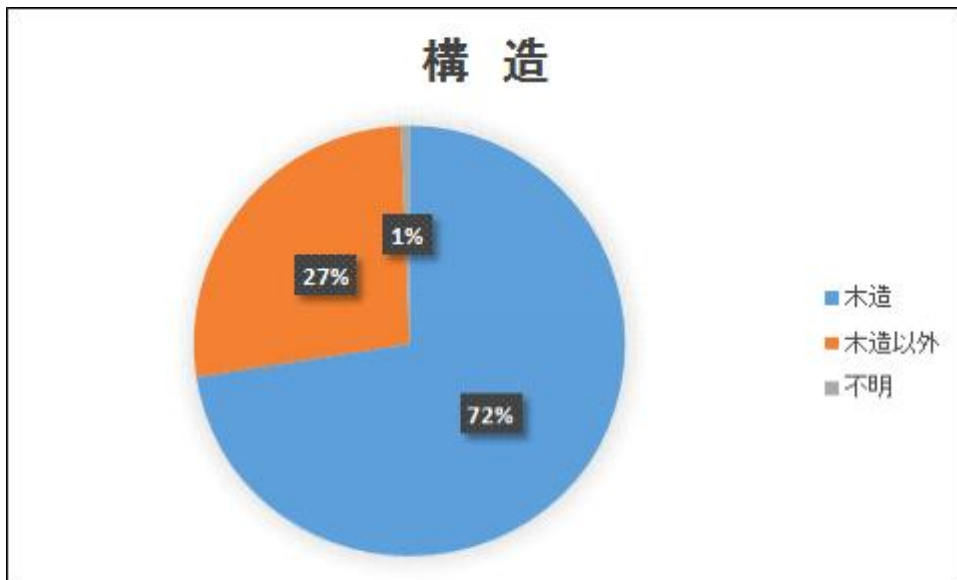
### 3-2. 構造

#### (1) 美波町桜町地区



木造	227
木造以外	204
不明	17

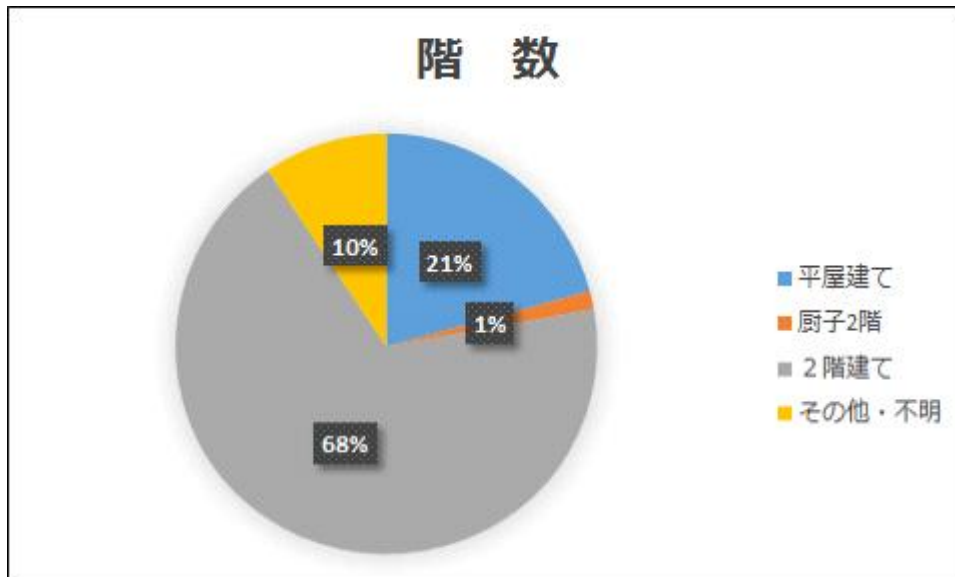
#### (2) 木頭出原・和無田地区



木造	338
木造以外	125
不明	3

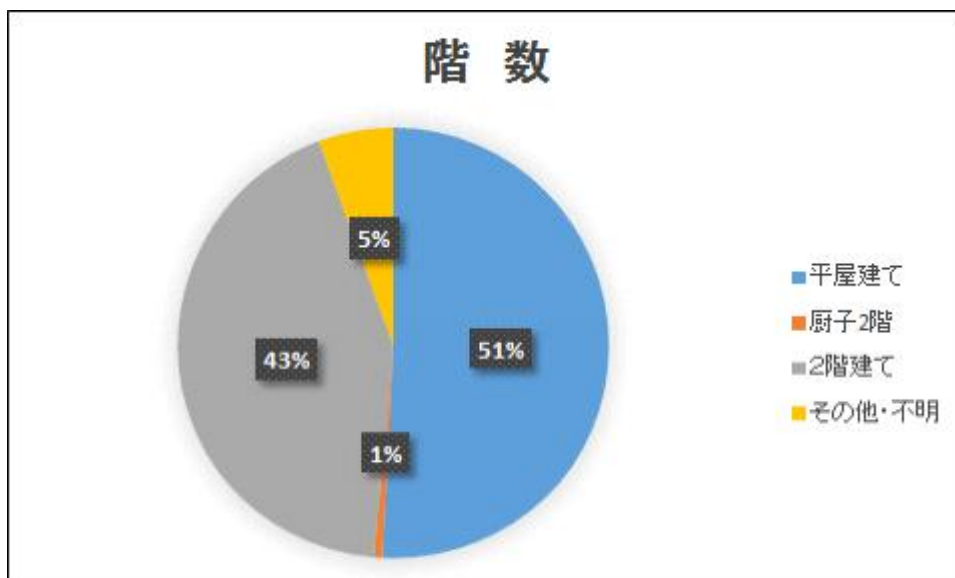
### 3-3. 階数

#### (1) 美波町桜町地区



平屋建て	90
厨子2階	6
2階建て	296
その他・不明	41

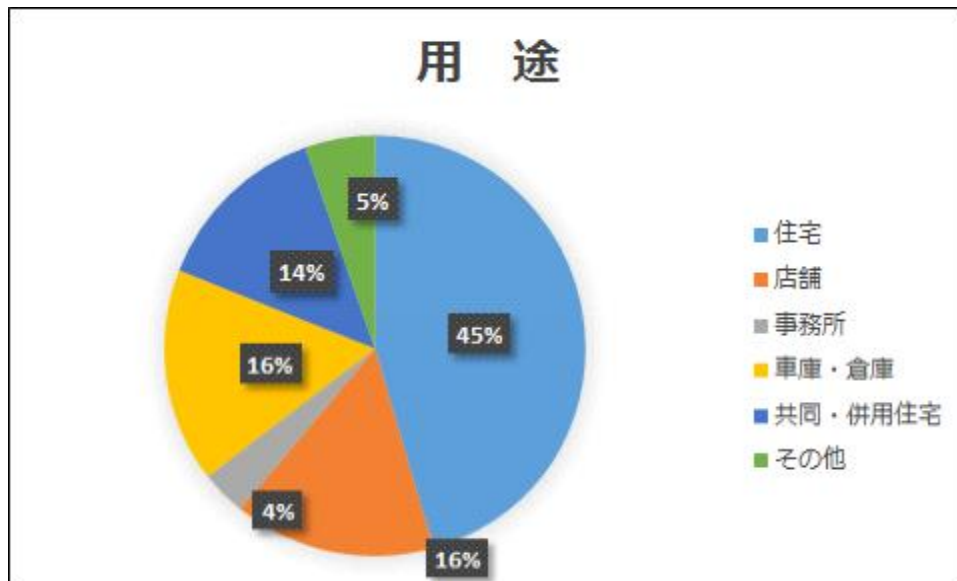
#### (2) 木頭出原・和無田地区



平屋建て	245
厨子2階	3
2階建て	207
その他・不明	27

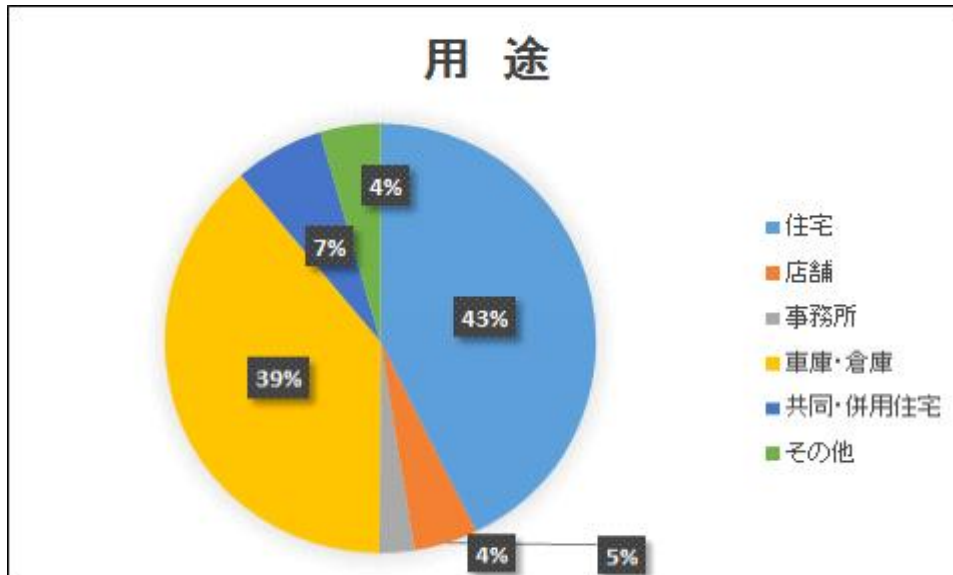
### 3-4. 用途

#### (1) 美波町桜町地区



住宅	297
店舗	102
事務所	23
車庫・倉庫	107
共同・併用住宅	89
その他	35

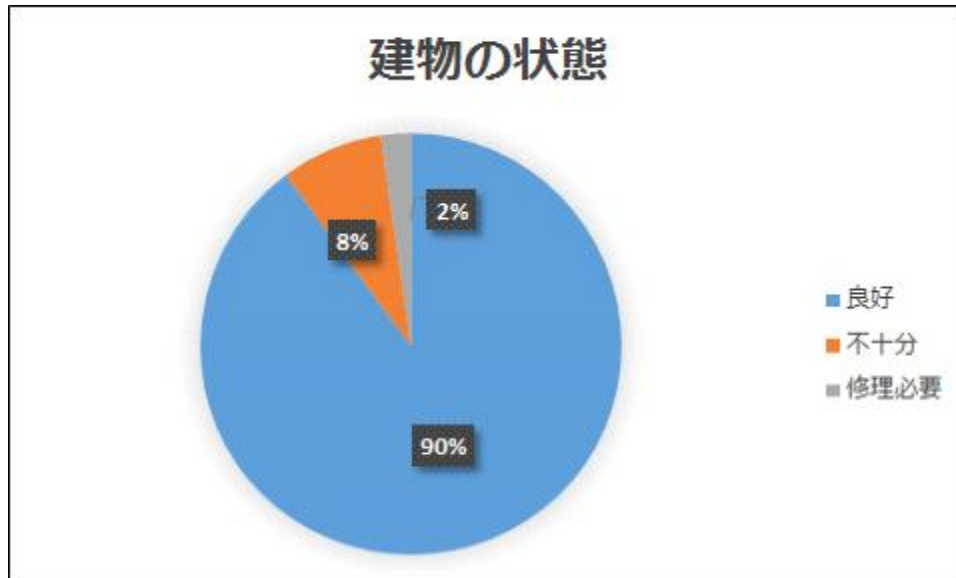
#### (2) 木頭出原・和無田地区



住宅	293
店舗	33
事務所	18
車庫・倉庫	266
共同・併用住宅	46
その他	31

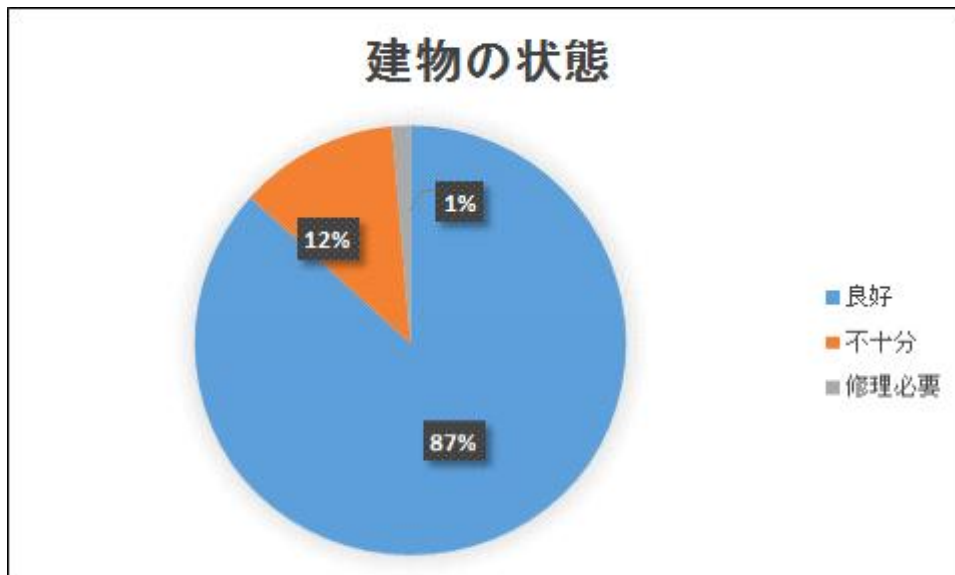
### 3-5. 建物の状態

#### (1) 美波町桜町地区



良好	391
不十分	34
修理必要	10

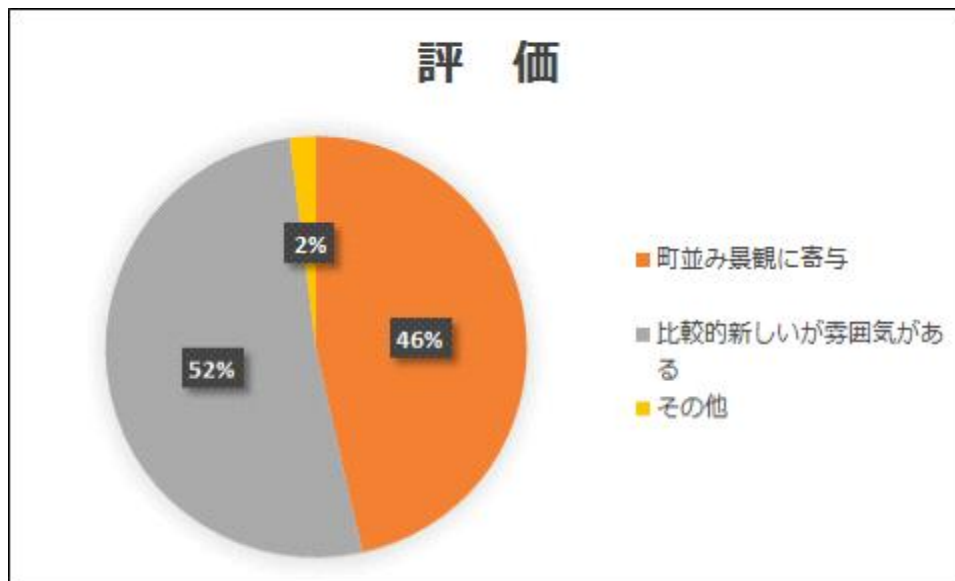
#### (2) 木頭出原・和無田地区



良好	378
不十分	52
修理必要	6

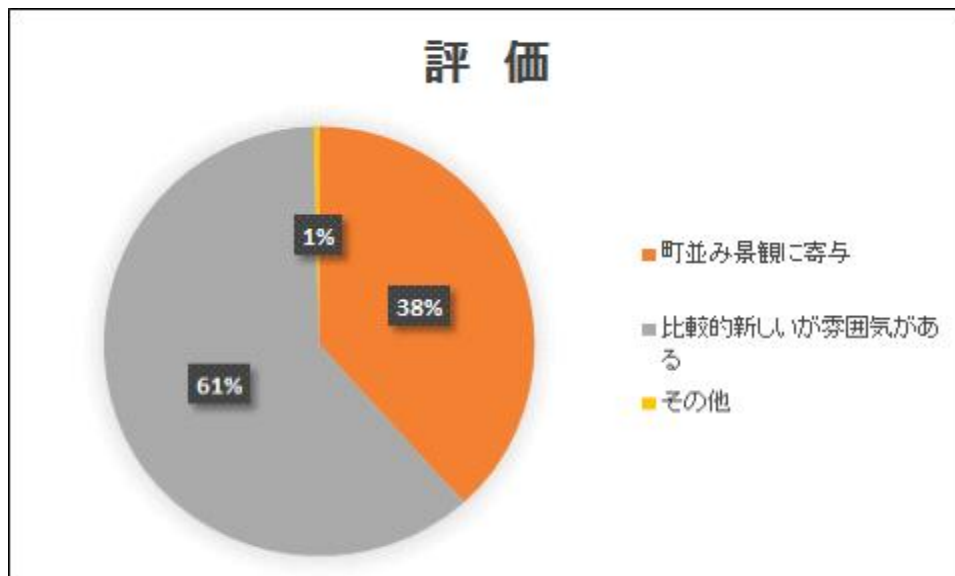
### 3-6. 評価

#### (1) 美波町桜町地区



町並み景観に寄与	92
比較的新しいが雰囲気がある	102
その他	4

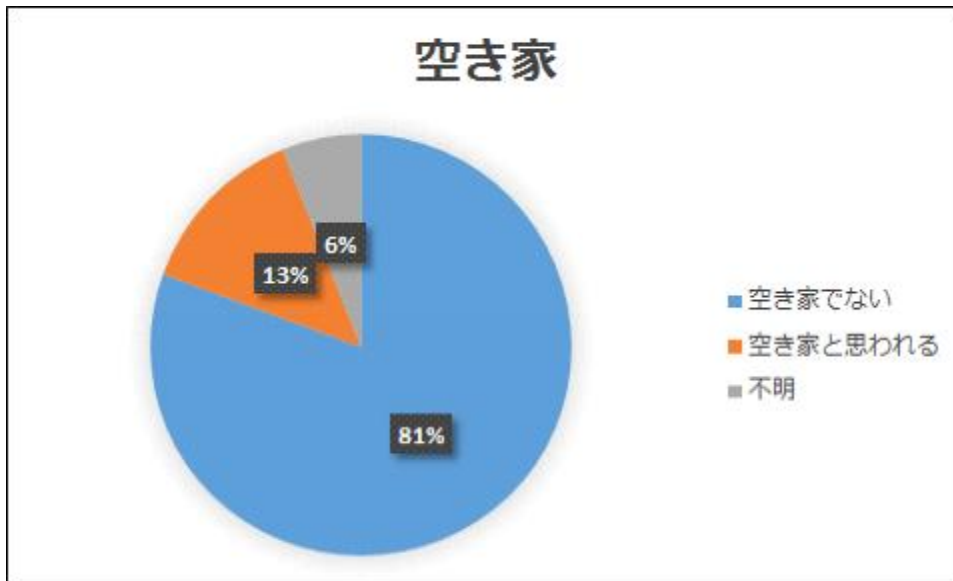
#### (2) 木頭出原・和無田地区



町並み景観に寄与	96
比較的新しいが雰囲気がある	154
その他	1

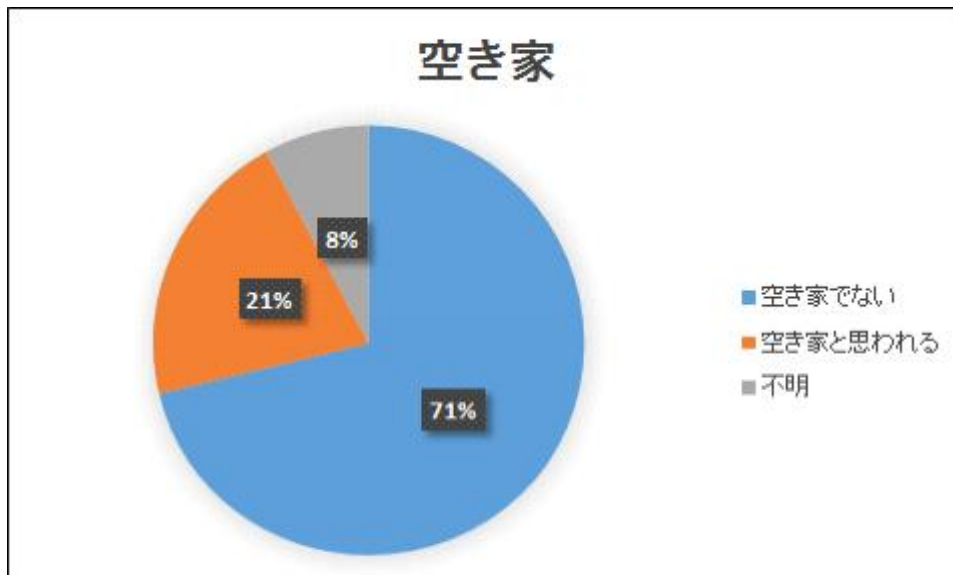
### 3-7. 空き家

#### (1) 美波町桜町地区



空き家でない	332
空き家と思われる	55
不明	25

#### (2) 木頭出原・和無田地区



空き家でない	307
空き家と思われる	90
不明	34



### 3-8. 調査結果に対する考察

以前美波町日和佐浦地区及び海陽町鞆浦地区で行った建物悉皆調査との比較の観点も交え、今回の結果について考察を行う。

まず地域の特徴的な建物の割合については4地区ともほぼ同様であったが、構造については、今回の桜町地区で木造が51%、日和佐浦地区で55%なのに対し木頭出原・和無田地区では72%、鞆浦地区では83%と大きな違いが見られた。

次に用途についても、今回の桜町地区で住宅が45%、木頭出原・和無田地区で43%なのに対し、日和佐浦地区で65%、鞆浦地区で71%と大きな違いが見られた。桜町地区では住宅の割合が少ない代わりに、店舗の割合が16%と非常に大きくなっている。桜町地区は薬王寺の門前町として栄え、古くから参拝客向けの商店が多くあったことから、このような割合になっていると考えられる。それに対し木頭出原・和無田地区は山間の農村であるため作物を貯蔵したりする倉庫が多く、鞆浦地区は古くからの漁村集落であるため、上記のように木造建築が多く、かつ漁業に携わる方の住宅の割合が高くなっていることがうかがわれる。

建物の状態については桜町地区で良好が90%と、木頭出原・和無田地区の87%、日和佐浦地区の88%、鞆浦地区の80%に比べ最も割合が高かった。評価については、町並み景観に寄与しているもので桜町地区が46%、木頭出原・和無田地区が38%、日和佐浦地区が76%、鞆浦地区が25%と大きな違いが見られた。記録者の主観によるところも大きいため単純比較はできないが、それぞれの地区の成り立ちや性質に起因するのではないかと考えられる。

最後に空き家でないと判断された建物については、桜町地区で81%、木頭出原・和無田地区で71%、日和佐浦地区で70%、鞆浦地区では67%となり、桜町地区が4地区の中で最も割合が高かった。これは、過疎化の進行度を考える上で参考になるものと思われる。

## 4. 学生及び地域住民の意見、感想

今回の建物調査は、前述の徳島大学総合科学部の学生12名が所定の調査表に基づき現地調査を実施した。この調査にあたり、学生が建物調査を行うだけで無く、各地区の雰囲気を感じることや地域住民の方々と触れあうことにより、地域の歴史や現状、課題といったものを調査することができた。

以下に学生の感想や意見、及び地域住民の方々からヒアリングした事項などを述べる。

### 4-1. 学生の感想や意見

#### (1) 桜町地区

○この町に特徴的な建物は厨子造、塗籠造、看板建築の三種であるといわれ、私が見ることができたのは看板建築のみであった。

昔の町並みがあるだけでは意味がなく、その建物にどのような歴史があり、その時代背景を知ることによってかつての日本を感じられるというのが大切なのではないかと考えた。

調査の時間を短くすることが必要であるなら紙媒体を使うべきだが、調査をする時間が十分にある場合は iPad で調査をした方がよいと思う。

○今回の調査範囲である薬王寺周辺から桜町商店街周辺は、比較的新しい建物

が多い印象を受けました。看板建築の割合が高いことや、新しい建物でも町家風の外観にしている建物があったことがその要因の1つだったのではないかと思います。歴史的な価値を感じられる建物もありましたが、私の担当した地区はその多くが空き家となっており、早急に建物の修繕が必要であるほど荒れていることが非常に「もったいない」と感じました。

今回は、紙の調査シートに加えてiPadを併用して調査を行いました。iPadに全ての機能が入っているためカメラやバインダーなどを持つ必要がなく、手軽に調査することができました。

- 桜町の建物は比較的新しい建物が多く、建物数もあまり多くないと思っていた。というのも、桜町は日和佐浦よりも歴史が新しく、薬王寺の門前町として商店街の筋は栄えていたが、その周りは畑が広がっており、とても

人が住むような場所ではなかったという話を日和佐の方々から聞いたことがあったからだ。以前、日和佐浦でも同様の調査を行ったが、日和佐浦では昔からの住宅が多く残っていたが、桜町は日和佐浦よりもより近代的な作りのように感じた。桜町では昔のままの家は少なく、看板作りの建物のように途中で手が加えられたり、立て替えが行われていたり、京都の長屋のように縦に細長く作られている建物が残っているなど、区画によって作られた年代が異なるためか特徴がハッキリしていた。

- 今回の調査では、紙の調査シートと合わせてiPadを用いて調査を行い、それぞれにメリットとデメリットがあることを実感した。iPadでは、1つの建物ポリゴンに対して1つのピンが立てられており、そこに建物意匠や空き家であるかの判断といった属性を付与していく。データで管理することから、調査後に膨大な量のデータ入力作業を行わなくて済む点がメリットとして挙げられる。加えて、従来であれば調査シートの記入とデジカメによる写真撮影の2人で調査を行ってきたが、iPadは2つの機能を併せ持っている。そのため、1人で調査を行うことが可能である。しかし、より正確なデータを収集するためには2人1組で調査を行う方が望ましく、悩ましい点である。一方の調査シートは、2次調査(一度調査した建物に誤りがなにか、別の調査者がチェックを行うこと)の際にペンの色を変えるなどすれば、1次調査の内容を残しつつ調査を行うことが出来る。これは、紙ならではのメリットである。

実際に奥河内地区で調査を行い、日和佐浦と近接した場所でありながら、違った特徴を持っていると感じた。日和佐浦には「あわえ」や「ミセ造り」といった特徴が多く見られたが、奥河内には商店やその名残が多くみられ、まさに門前町という印象を抱いた。現在では、古民家を改装して、趣のある建物で運営される



桜町地区の町並み



調査風景

サテライトオフィスやカフェもある。奥河内地区には、活用出来る建物が多くあり、そして門前町という大きな魅力がある。

- 日和佐は海陽町と比べて伝統的な建物が少なく、現代風の建物が多かったように思う。しかし、日和佐のいいところは、一大観光スポットである薬王寺から近く、観光客を呼びやすい立地である商店街に、伝統的な建物がまとまって分布している点である。今後さらに力を入れて伝統的な建物を保全・整備することで、伝統的な建物群を目玉とし、薬王寺だけに立ち寄るような観光客を商店街に呼び込むことができれば、地域経済の活性化につながると考えられる。

ipad の効果に関しては学生内でも賛否両論があったが、私自身は ipad を導入したことで調査効率が格段に上がったと感じる。便利であると感じた点は①文字を入力する際に予測変換が出る、②地図上に現在地が表示されるため、どの建物かわかりやすい、③間違いを簡単に訂正できる、という3点である。

## (2) 木頭出原地区・和無田地区

- 景観面の感想は、本調査地の那賀町木頭村は山の斜面に集落が広がった形の地域である。1階部分が道路下にある建物や、上の道路へ行くための細い石積みの階段が多く見られた。石積みの階段はとても良く、情趣に富んでいると思う。ところどころに木頭ゆずがなっている木が見られた。野生の木頭ゆずの木と思われるものや、計画的に植えられたであろう、並んで生えているものがあつた。木に黄色の実がなっているのが山全体に見える景色はこの地域のまとまりが強いことを思わせる。

この木頭村のように山の斜面にあるきれいな山村風景を残している集落は今日ではもうなかなか見られないのではないのでしょうか。

- 今回は今シーズン最大級の寒波が押し寄せ、雪の降る中での調査という少し過酷なものだった。極寒の中では、体が思うように動かず、少し調査スピードが落ちてしまったように思う。

現状では、新しく建てられた鉄筋コンクリート等の建物も調査対象となるが、今後は、現代風の建物は空き家かどうかの確認を行うにとどめ、伝統的な建物を重点的に調査する方が良いでしょう。そうすることで、一つの建物により時間をかけられるようになり、調査の精度が向上すると考えられる。

- 出原、和無田地区の国道沿いでは、2階部分が玄関となっている建物が多く見られました。これは、標高差がある山間部に主要な道路を敷設したからではないかと思います。その土地ならではの建物の特徴と言えるのではないのでしょうか。また、特に標高の高い場所では、柚子の栽培や畑で農業を行うことから、倉庫が多いという印象を抱きました。しかし、家主がいなくなることで手入れがされず、空き家やあばら家となった建物も多くあり、このような場所でこそ本調査で得たデータを活かしてほしいと思います。

私はこれまで4度も建物悉皆調査に参加させて頂きました。どの地域も、建物にその土地ならではの特徴が表れており、それぞれの地域の表情を見ることが毎回の楽しみとなっていました。

- 今回調査していて、出格子やミセづくりは見られず、入母屋の屋根、下見板の



木頭出原・和無田地区の町並み

壁、持ち送りを使用している家が多いことから、山間部という地形が関係あるの  
だろうかと感じると共に、古い意匠が残っていることを嬉しく感じました。新しい家  
よりも地域に特徴的な建物が多いことが地域の特性だと感じる一方で、空き家  
が多く、せつかく町の景観に寄与している意匠が残った家なのに、荒れるに任  
せていることはもったいないと思いました。

気になったのは、整備された階段が少なく、冬場に地面が凍った際に危険で  
はないかということです。冬場でも活動的な方が多く、調査中に多くの方に出会  
いました。長くその土地に住んでいたら、整備されていない道の移動も慣れてい  
るのかもしれませんが、高低差のある土地で坂が急になっているため、階段を整  
備することでより安全・安心な生活を送ることができるのではないかと思います。

- 那賀町は、徳島県でも山々に挟まれた場所に位置しており、今回の大寒波の  
影響で大雪が予想された。そのため、  
安全に行き来ができず、また調査自  
体も途中で切り上げて終了する可能  
性もあったため、中止となった。今回  
の調査で天候による影響も考えなくて  
はならないことを改めて感じた。



調査風景

- 調査をするときはどこの所属の誰から  
依頼が来てどのような理由から調査を  
するのかというのを1枚の用紙にまと  
めたものがほしい。今回調査中に地  
元の住人から何をやっているのかを  
聞かれたことがあった。木頭では回覧  
板により今回の調査を周知していたが、それをチェックできてない人やしてい  
ても忘れてる人もいることが考えられる。

今回の調査では前回の美波町ほど地域に特徴的な建物があるわけではなか  
った。ただ、多くの家でかんきつ系の果物を栽培していたため、それに付随して  
倉庫が多かったように思う。また、木造建築に金属トタンの壁のものも多かった。  
ただ、これらが地域に特徴的な建物なのかどうかがよくわからなかったので判断  
に困ってしまった。その地域に特徴的な建物というのが何なのかを事前に知っ  
ておくことが必要であると感じた。

## 5.まとめ

この調査を実施することで、桜町地区、木頭出原・和無田地区にある建物のデータベース化と学生の所見を得ることができ、それにより各地区における現状、課題などがある程度浮き彫りになった。

その一方で、美波町においては、首都圏の企業を中心にリスク分散を主な目的とした「モバイル勤務」「サテライトオフィス勤務」など、従来の働き方を見直している動きがあることに着目し、いわゆる「限界集落」と呼ばれる過疎地域にまで整備された「全国屈指のブロードバンド環境」を最大限に活かした「サテライトオフィス」の取組みが、多くのメディアの関心を集めている。特に今回の桜町地区では、美波町に進出している16社のうち4社がサテライトオフィスを開設しており、過疎対策の新たな扉を開く処方箋となりつつある。さらに、徳島文理大学が大学サテライトオフィスを設置しており、門前町の活性化を後押しする動きが出てきている。

那賀町においても、平成26年度から特産品の一つである「木頭ゆず」をEU市場に輸出しており、登録生産園地の拡大や海外食品見本市への出展による販路の開拓等輸出体制を強化することで、「デマンドチェーン」と「サプライチェーン」の構築に産地が一丸となって取り組んでいるなど、もうかる農業の実現に向けて着実に進んでいるところである。



SO誘致イベント(大阪)



シラ見本市(フランス・リヨン)

また、桜町地区においては門前町であったことを反映して店舗が多く、それに伴い比較的新しい建物が多いが、木頭出原・和無田地区においては山間部の農村であることを反映して倉庫が多いなど、歴史に裏付けられた特徴的な町並みが多く残っていることがわかった。

さらに、地域の住民同士の結びつきも強く、コミュニティがしっかりと形成されているうえ、空き家も多いが良好な状態保っている建物も8割を超えているなど今後の可能性を秘めていることも確かである。

特に空き家問題の対応については、防災の観点に立った対策や利活用方法について学生の意見がきっかけづくりになる部分もあると思われる。

美波町及び那賀町は平成27年10月に、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、「美波町人口ビジョン」、「美波町ふるさと創造戦略～共創によるまちづくり～」及び「那賀町人口ビジョン」、「那賀町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定した。これら総合戦略において地元産業の担い手の確保・育成や地元製品のブランド化、さらに移住、定住希望者の相談や支援体制の整備等により新しい人の流れを創る取組み等を展開している。これらに加え空き家や空き店舗などの未利用施設の利活用の取組を組み合わせ

ることで地域コミュニティの維持、再生や新たな地域づくりが可能であることから、今回の建物悉皆調査と学生からの提言はこれらの課題解決に少なからず寄与できるものと思われる。

南部圏域には桜町地区、木頭出原・和無田地区同様、人口減少や空き家の問題を抱える地域が少なくない。そこで、若者の機動力と感性を活かすため、高等教育機関との今回のような連携も有効であると考えます。こうした行政のニーズと高等教育機関の社会貢献、地域連携の目的で合致し、今後、他地域でさらに拡充できればと思っている

学生の意見には具体的なものもあったことから、今後、行政と地域住民が連携し施策に若い感性を反映させる努力も必要であると思われる。これらを踏まえ持続可能な地域づくりや地方創生に繋げていきたい。

以上